

『世界に広げよ、念仏の声』を読んで」

来年の春、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要が勤まります。50年に一度のこの法要に、是非ともお参りしたいと心待ちにしているのは、私だけではないでしょう。

さて、今から60年ほど前、宗祖700回御遠忌を迎える10年前に、東本願寺教団のトップの座である宗務総長に就かれた暁鳥（あけがらす）総長が、御遠忌に向けての第一声を発せられました。「世界に広げよ、念仏の声」という見出しが付けられたこの文を読んで、強く心を打たれましたので紹介します。

「私は宗祖聖人の御法事を申すには、聖人の最も喜ばれることをするのがよいと思います。聖人の最もお好きなことは、沢山の人をお浄土へ送り届けることでもあります。これまでは、宗門では一万の僧侶、百万の門徒というて来たが、私は十方衆生というてある如来の本願にたより、二十億の人を念仏の道に引き入れ、浄土に往生せしめることが聖人の何よりお好きなことと思います。」

と述べておられます。何というとても素晴らしい目標でありましょうか。その思いの根底には、

「親鸞聖人の教えは、ローマのアウグチヌスの教えよりも、ドイツのルターの教えよりも深みと広さがあるかに優れております。私達は日本に生を受けたために、この尊い教えに遇い、永遠の生命に平和と自由の喜びを得ておるのであります。」

と言いつける信念があったからでありましょう。その方策として、聖人の書かれた『教行信証』を少なくとも数ヶ国語に翻訳し、それを伝道する人材を育てたいと述べておられます。

この暁鳥総長の熱い願いに接して、七百五十回御遠忌法要はもとより、日ごろの聴聞の法座に一人でも多くの人に就いてもらうように働きかけていきたいという力を頂きました。